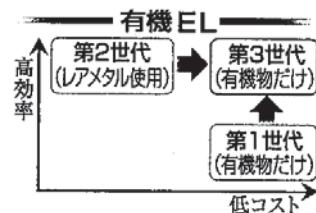


あだち・ちはや  
1963年10月東京都生まれ。91年  
九州大学院博士課程修了、リコー入社。  
同年、米プリントン大研究员、千歳科  
学技術大助教授、教授を経て、現職。



## 次世代有機ELを開発 安達 千波矢さん



有機ELは、1950年代から研究されていていたが、「99%の人ができない」と言っていた。80年代末に蛍光材料を使う有機物だけの第1世代ができたが、電気を光に変える発光効率が低かった。同時に現れた液晶の方が画面用に早く実用化された。2001年

あだち・ちはや  
1963年10月東京都生まれ。91年  
九州大学院博士課程修了、リコー入社。  
同年、米プリントン大研究员、千歳科  
学技術大助教授、教授を経て、現職。

有機化合物を使った新規体と考えられていた電圧をかけると発光する。電気を通さない绝缘体とされていた新規化合物を使つた新規

スマートフォン (多機能携帯電話) やテレビの一部で画面に使われている有機ELは、電圧をかけると発光する。電気を通さない绝缘体とされていた新規化合物を使つた新規

九州大の安達千波矢教授(49)は昨年、レアメタル(希少金属)を

有機ELの約10分の1で、照明や大画面のディスプレーなどの実用化に期待がかから

る。

有機ELの約10分の1で、照明や大画面のディスプレーなどの実用化に期待がかから

る。この企業が特許を独占し、普及の足かせとなつていている。

そこでレアメタルを使わず発光効率が良い

# 科学する人

## 低コストで高性能

### レアメタル使わず実現

には、イリジウムなど高性能な次世代有機ELを実現させた。消費電力が少なく、薄くて軽い。費用は従来の0%だが高価で、米国

の企業が特許を独占し、普及の足かせとなつていている。

そこでレアメタルを使わず発光効率が良い